

放射線安全・廃棄物管理ワークショップ 議事録

2014年9月9日～12日

カザフスタン、アスタナ

1) ワークショップ概要

i) 期間	2014年9月9日～12日
ii) 会場	カザフスタン、アスタナ
iii) 開催機関	文部科学省(日本)、カザフスタン国立原子力センター
iv) 参加者	10カ国から15名(オーストラリア、バングラデシュ、インドネシア、日本、カザフスタン、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム)
v) プログラム	添付1

2) プログラム

日本の文部科学省とカザフスタンの国立原子力センターの共催により、2014年9月9日から12日にかけて、FNCA放射線安全・廃棄物管理ワークショップがカザフスタンのアスタナで開催された。

FNCA参加10カ国(オーストラリア、バングラデシュ、インドネシア、日本、カザフスタン、マレーシア、モンゴル、フィリピン、タイ、ベトナム)から、放射線安全・廃棄物管理分野の政策、規制、運転そして研究開発に携わる15名の専門家が本ワークショップに参加した。ワークショップのプログラムは添付1を参照。

[開会セッション]

カザフスタン共和国国立原子力センター総裁の Erlan G. Batyrbekov 氏の挨拶により、ワークショップが開会した。同氏は、全ての参加者を歓迎し、本ワークショップはアジアの研究者にとって放射線利用のさまざまな分野における最近の動向について学び、参加国間の研究員のネットワークを構築する上でよい機会であることを強調した。東京大学の小佐古教授は、国立原子力センターへワークショップ開催に対する深謝の意を表し、放射線と放射性物質の取り扱いにおいてはベネフィットとリスクの両方を考慮することが重要であると述べた。カザフスタンエネルギー省原子力戦略部長の Shayakhmet Shiganakov 氏はエネルギー省を代表して挨拶を行った。同氏は、政府の省庁再編に伴い、エネルギー省が最近新設されたことに言及した。その後、アジェンダの確認と、参加者による自己紹介を行った。ワークショップの参加者リストは添付2を参照。

次に、FNCA 日本アドバイザーで公益財団法人科学技術広報財団理事の和田智明教授が、FNCAの活動概要と、第14回 FNCA 大臣級会合および第15回コーディネーター会合の開催結果について

て報告した。現行の 10 プロジェクトへの提案事項に加え、最近の福島第一原子力発電所の状況や日本の新たなエネルギー戦略についても説明した。

[セッション I] カントリーレポートの発表

- 原子力・放射線緊急時計画・対応

安全規制の枠組み、ゾーネーション、緊急事態分類、オンサイトおよびオフサイト対応、地方自治体計画、トレーニングおよび人材育成、放射線モニタリング計画を含む原子力・放射線緊急時計画に関するカントリーレポートが 10 カ国より発表された。各レポートのサマリーは添付 3 を参照。

[セッション II] 原子力・放射線緊急時計画および対応に関する統合化報告書の枠組みに関する討議

小佐古教授は、原子力・放射線緊急時計画および対応に関する報告書において、1)現状把握と経験の共有、2)放射線防護の原則、3)カテゴリー化、4)国際支援の可能性、5)規制とガイドラインの 5 項目を包括することを提案した。ワーキングスケジュールについて確認した後、参加国は 3 つのグループに分かれ、報告書で扱うべき内容について話し合った。その後、各グループはそれぞれの目次案を共有し、討議を行った。合意された目次案は添付 5 を参照。

[セッション III] RS&RWM 分野において FNCA 参加国が直面している課題に関する討議

参加 7 カ国より、1)ウラン鉱山における放射線安全に関する課題、2)RI 施設や原子力発電所における課題、3)原子力発電所導入計画、4)低レベル放射性廃棄物処分場および長期貯蔵施設の現状および計画について発表があった。サマリーは添付 3 を参照。

[オープンセミナー] 原子力および放射線関連施設における放射線防護

9 月 11 日に、ナザルバエフ大学にて、原子力および放射線関連施設における放射線防護に関するオープンセミナーを開催した。始めに、ナザルバエフ大学革新技术研究所長の Baigarin Kanat 教授が開会挨拶を行った。放射性廃棄物管理分野はナザルバエフ大学も関わっている重要なテーマであることから、同氏は本セミナー開催への感謝の意を表した。またナザルバエフ大学の体制について説明し、本セミナーおよび FNCA 参加者のアスタナでの滞在が有意義なものになることを望んだ。

小佐古教授は、ナザルバエフ大学への感謝の意を表し、本セミナーが、参加者と良いコミュニケーションを取るための機会になることを期待した。

その後、日本アイソトープ協会専任理事の二ツ川章二氏が日本の RI 利用について講義を行った。また、マレーシア原子力庁廃棄物環境技術部庁の Mohd Abd Wahab Bin Yusof 氏は IAEA 安全基準および ICRP 勧告について紹介し、小佐古教授は、放射線安全の基礎について講義を行った。和田智明教授は、FNCA 活動の概要と、アジアにおける原子力および放射線利用のための文部科学省人材養成プログラムについて講演を行った。

午後のセッションでは、始めに、NORM の安全管理に関するパネル討議を行った。電力・原子力産業安全委員会の副委員長である Timur Zhantikin 氏よりカザフスタンにおける NORM の安全管理に関するリードスピーチがあり、その後、オーストラリア、インドネシア、マレーシア、

モンゴルの参加者がパネル討議を行った。次に、タイ原子力技術研究所(TINT)放射性廃棄物管理センター放射性廃棄物管理課長の Nanthavan Ya-anant 氏が医療機関における放射性廃棄物管理に関するリードスピーチを行い、バングラデシュ、日本、フィリピン、ベトナムの参加者が討議を行った。オープンセミナーのサマリーは添付 4 を参照。

[セッション IV] 核物理研究所へのテクニカルビジット

9月12日の午後に、核物理研究所教育研究複合施設を訪問した。この研究所はカザフスタンの基礎原子力材料化学および技術開発分野における先駆的な研究所の一つである。主要な活動は、相互作用エネルギー、環境試験、RI 製造、原子炉物理分野における研究開発であるが、研究だけでなく、教育目的でも利用されている。参加者は重イオン加速器である DC-60 を見学し、施設において行われている活動について学んだ。今後の目標として、国内外の専門的組織とのさまざまな協力体制の構築や、認証の取得等を掲げている。

[セッション V] まとめの討議－ワークショップのまとめと今後のプロジェクトと活動(2014-2016)

参加者は、原子力・放射線緊急時計画および対応に関する統合化報告書の目次案について合意し、最初の原稿の完成へ向けて協力して取り組むことで合意した。

次回のワークショップ開催国として、インドネシアとベトナムが提案された。

[閉会セッション]

カザフスタン国立原子力センター副総裁の Sergey Berezin 氏および小佐古教授の挨拶より閉会の挨拶があり、ワークショップが正式に終了した。

添付

添付 1－プログラム

添付 2－参加者リスト

添付 3－セッションサマリー

添付 4－オープンセミナーサマリー

添付 5－原子力・放射線緊急時計画および対応に関する統合化報告書の目次案